

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.16〉

＜琴芝③ 小学校歌＞

琴芝小が開校したのは宇部市の炭鉱が隆盛期だった1958（昭和33）年4月。増え続ける児童数に対処するため、上宇部小と神原小の各3分の1の児童を合わせた30学級1638人で、県立宇部高等女学校の跡地を利用して開校した。開校当時には校歌がなく、初代伊藤英一校長の呼び掛けで「緑の芝に」という愛唱歌が生まれた。その30年後に作られた校歌と共に歌い継がれ、現在は入学式や卒業式、全校集会といった場面ごとに使い分けながら二つの歌が親しまれている。

## 30周年記念し制定

### 開校当時の愛唱歌も受け継ぐ

#### 校歌

一 霜降山の空晴れて  
常盤の水もさやかなる  
緑の園につどい来て  
清く明るくたくましく  
みんなが大きくなるところ  
われらの琴芝小学校

二 真綿の流れ絶え間なく  
琴芝台をゆく日々に  
自ら学ぶ歓びを  
分かちつづは輝いて  
みんなの心がひびきあう  
われらの琴芝小学校

#### 緑の芝に

一 緑の芝に 白い窓  
輝く希望 日の光  
みんな仲よく 手をとって  
はげむ琴芝小学校

二 ますみの空に のぼる旗  
仰ぐ校章 日の光  
みんな元気にがんばって  
伸びる琴芝小学校



中庭スペース「緑の芝」

「緑の芝に」を校歌としなかったのは、校歌となると学校の教育方針、校風、伝統、地区の自然環境などを考慮し教育活動の指針として慎重な検討が必要だったためと

いう。異なる校風の下に育ってきた児童の気持ちをつなぐため、正式に1986年に校歌として制定された。3番の「みんなであわせ創る庭」という歌詞に、初代校長の思いが受け継がれている。

コロナ禍になって全校で合唱する機会は失われたが、朝の放送時間に2曲を交互に流すなどして児童は毎日歌に触れる。藤本満士校長は「琴芝小が目指す子ども像『心豊かな子』『友達と仲よくする子』『しっかり考える子』『馬力を出す子』の四つの項目にもそれぞれ、校歌の歌詞の精神が組み込まれている。親や先生たちの願い、そして子どもたち自身の将来への希望が詰まった校歌を、またみんなで声を合わせて歌う日が来てほしい」と話した。

歌詞には、作詞を担った伊藤校長の「校舎は子どもの幸せをつくり出すところ」という思いが描かれ、開校当時の新しい校舎、白い窓、運動場周辺にあった緑の芝の美しさもつかがい知ることができる。